

令和8年2月17日

## 令和7年度 学校関係者評価委員会評価結果報告書

世田谷区立桜町小学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 毛利 任宏

世田谷区立桜町小学校学校関係者評価委員会は、昨年度同様、「学校関係者評価アンケート調査」「教員との面談」ならびに「学校運営の適宜見学（運動会、研究発表会、公開授業等）」を通じて、令和7年度の学校関係者評価について意見交換を行い、評価結果を取りまとめましたので、以下のとおりご報告いたします。

なお、地域、保護者、児童のみなさまには、「学校関係者評価アンケート」実施にご協力いただきありがとうございました。

### 1. 令和7年度学校関係者評価委員会開催状況

委員会	開催日	評価委員出席者（敬称略）	桜町小学校出席者
第1回	令和7年 6月24日	青柳、小暮、小島、外館、 毛利、山本	中村校長、上原副校長、後藤副校長
第2回	// 9月2日	小暮、外館、毛利	中村校長、上原副校長、後藤副校長
第3回	// 10月17日	小暮、毛利、山本	中村校長、上原副校長、後藤副校長 （面談のみ出席） 田中主任教諭、石川主任教諭、柳沢 教諭
第4回	令和8年 1月20日	青柳、小島、毛利	中村校長、上原副校長、後藤副校長
第5回	// 2月17日	小島、外館、毛利	中村校長、上原副校長、後藤副校長

\*評価委員小暮貞之氏は、令和7年11月14日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 2. アンケート調査実施概要

- (1) 調査対象 5・6年全児童、全児童保護者、地域・学校関係者
- (2) 実施日 令和7年10月28日～11月10日
- (3) 調査方法

#### ① 選択回答アンケート

設問に対して5択（A とても思う、B 思う、C あまり思わない、D 思わない、E わからない）の選択回答アンケートを、Web方式で実施しました。評価項目は、区からの共通評価項目と本校独自評価項目で構成されています。昨年度からの変更点として、共通評価項目が減り、本校独自評価項目が増え、本校独自評価項目も当校の学校経営方針に合わせた設問に変更しました。

## ②自由記入アンケート

選択回答アンケートを補完し、より評価の精度を高める目的のために選択回答アンケートと合わせて、Web方式で実施しました。(児童は除く)

### (4) 配布数と回答数

#### ①選択回答アンケート

項目		5・6年児童	全児童保護者	地域・学校関係者
配布数	本年	325	977	27
	昨年	286	945	29
回答数	本年	283	671	22
	昨年	308	663	18
回答率%	本年	87.1	68.7	81.5
	昨年	107.6	70.2	62.1
	昨年差	—	△1.5	+19.4

注) 昨年の5.6年児童の回答数が配布数より上回っているのは、複数回答できる仕様になっているため、二重に回答した児童がいたと思われる、本年の回答率の比較はできない。

#### ②自由記入アンケート

属性	アンケート送付数	アンケート回答数	回答率(%)	回答率昨年比(%)
1年生保護者	163	30	18.4	△0.5
2年生保護者	167	17	10.2	△10.8
3年生保護者	138	22	15.9	+4.6
4年生保護者	161	20	12.4	+2.9
5年生保護者	161	21	13.0	+7.1
6年生保護者	153	14	9.0	±0
わかくさ保護者	34	7	20.6	+9.9
保護者計	977	131	13.7	+1.2
地域・学校関係者	27	5	18.5	+1.3

### 3. アンケート回答結果について

#### (1) アンケート回答率について

- 5・6年児童の選択回答アンケート回答率は、昨年の児童の回答数は複数回答があり正確な数値は得られなかったため、昨年との正確な比較は行えませんが、一昨年の回答率は89.0%であったことから、概ね例年並の回答率であったと見られます。保護者全体の回答率は、昨年同様に小学校から保護者へのリマインドメールを強化していただきましたが、昨年度より若干下回りました。地域・学校関係者の回答率は、昨年度より大幅に増加しました。
- 自由記入アンケートの回答率は、保護者全体で13.7%と、昨年度より1.2%増加しました。地域・学校関係者の回答率も、昨年度より1.3%増加しました。  
また、各学年保護者の回答率は、昨年度からの増加率は5年生保護者が学年で最も高く、続いて3年生保護者の回答率が増加しました。わかくさ保護者も母数は少ないものの回答率は昨年度より増加しました。一方で1年生、2年生保護者の回答率が昨年度より減少しました。例年、低学年保護者の回答率は高い傾向にありましたが、今年度は中学年以上の保護者の回答率が増え、変化が見られました。

#### (2) 児童(5・6年生)の選択回答アンケート結果

- 肯定的回答、否定的回答の多かった項目

- ・30 の設問項目に対し肯定的回答の多かった項目と否定的回答（「わからない」回答を含む）の多かった項目は下記の通りとなりました。
- ・肯定的回答の（％）は、A とても思う、B 思う回答合計を、否定的回答の（％）は、C あまり思わない、D 思わない、E わからない回答合計を示します。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 日頃から、交通ルールを守り、安全に気を付けて登下校をしている。(97.2%) ② わたしは、友だちのよいところを素直に認めることができる。(96.8%) ③ 日頃から、学校の決まりを守って行動している。(96.5%)	①は、生活指導についての項目で、本年度新設した評価項目である。 ②は、本校の今年度の重点目標である「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて」の取組みの効果が反映される本校独自項目である。昨年度より肯定的回答率が 2.6% 増加した。 ③は、生活指導についての項目で、本年度新設した評価項目である。
否定的回答	① わたしは、自分の意見を安心して言うことができる。(20.9%) ② 積極的に、自分の考えを、相手に分かるように伝えようとしている。(全体で発言・グループで話し合う・書き表す など) (15.9%) ③ 自分たちの学校や生活をより良くするために、話し合ったり自ら行動したりしている。(15.7%)	①は、本校の今年度の重点目標である「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて」の取組みの効果が反映される本年度新設した本校独自評価項目である。 ②は、学習についての項目で、本年度新設した本校独自評価項目である。 ③は、特別活動・キャリア教育についての項目で、本年度新設した本校独自評価項目である。

### (3) 保護者の選択回答アンケート結果

#### ■肯定的回答と否定的回答の多かった項目

- ・38 の設問項目に対し、肯定的回答の多かった項目と否定的回答（「わからない」回答含む）の多かった項目は下記の通りとなりました。
- ・肯定的回答の（％）は、A とても思う、B 思う回答合計、否定的回答の（％）は、C あまり思わない、D 思わない、E わからない回答合計を示します。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 集団生活の中で互いに気持ちよく過ごせるために、約束を守ったり、譲り合ったり、他者を大切にすることの大切さを伝えている。(97.0%) ② 子どもは、本校の学校行事を楽しんでいる。(95.8%) ③ 本校の学校公開や保護者会などで、児童の様子がわかる。(94.6%)	①は、本校の今年度の重点目標である「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて」の取組みの効果が反映される本校独自項目で、昨年度より肯定的回答率が 0.4% 増加した。 ②は、学校行事についての項目で、昨年度より肯定的回答率が若干減少した。(△0.3%) ③は、学校からの情報提供についての項目で、昨年度より肯定的回答率が、0.7% 増加した。
否定的回答	① 本校では、子どもが、将来「こんな人になりたい」「こんな人でありたい」という希望や思いをもてるような指導や支援を行っている。(37.5%) ② 家庭では、日頃から子どもに家庭で役	①は、特別活動・キャリア教育についての本年度新設した本校独自評価項目である。否定的回答率のうち、わからない回答率が約 45% 占めている。 ②は、本校独自評価項目で、昨年度より否定的

割を与え、決まったお手伝いをさせている。(33.4%) ③ 子どもは、家庭で自主的に学習している。(31.9%)	回答率が3.6%減少した。 ③は、その他全般についての項目で、昨年度より否定的回答率が2.6%増加した。
---	---

(4) 地域・学校関係者の選択アンケート結果

■肯定的回答と否定的回答の多かった項目

- 18の設問項目に対し、肯定的回答の多かった項目と否定的回答（「わからない」回答含む）の多かった項目は下記の通りとなりました。
- 肯定的回答の（％）は、Aとても思う、B思う回答合計、否定的回答の（％）は、Cあまり思わない、D思わない、Eわからない回答合計を示します。

	多かった項目	回答の分析
肯定的回答	① 学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子がわかる。(100.0%) ② 事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。(100.0%) ③ 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。(100.0%)	①は、学校からの情報提供についての項目で、肯定的回答率が100%となり、昨年度より11.1%増加した。 ②は、学校行事についての項目で、肯定的回答率は昨年度同様100%であった。 ③は、学校の安全についての項目で、肯定的回答率は昨年度同様100%であった。
否定的回答	① 学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。(18.2%) ② 学校のホームページで、学校からのお知らせや学校生活の様子がわかる。(18.1%) ③ 地域は、学校の教育活動や家庭での子育てに、さらに寄与できるところがあると思う。(13.6%)	①は、地域との連携についての項目で、昨年度より否定的回答率が1.6%増加している。 ②は、学校からの情報提供についての項目で、否定的回答率が昨年度より0.7%増加している。 ③は、その他についての本校独自評価項目で、昨年度より否定的回答率が3.4%減少している。

(5) 自由記入アンケート結果

① 記載内容の仕分けについて

- 昨年同様、記載内容が様々であるため、評価の関係上、内容を意図、主旨毎の分類に仕分けを行いました。
- 記載意図は、「意見」「要望」「御礼」の3分類に仕分けしました。
- 記載主旨は、「学習指導」「生活指導」「学校行事」「学校運営」「教職員」「広報・情報提供」「教育環境整備」「安全管理」「学校全般」「その他」の10分類に仕分けしました。

② 記載内容仕分け結果

記載意図 \ 記載主旨	意見	要望	御礼	合計
学習指導	9	7	4	20
生活指導		2		2
学校行事	2	5		7
学校運営	14	24	7	45

教職員	5	2	8	15
広報・情報提供				
教育環境整備				
安全管理	2	3		5
学校全般	5	4	10	19
無回答				23
合計	37	47	29	136

### ③ 自由記入アンケートまとめ

- ・記載意図は、「要望」が最も多く、続いて「意見」、「御礼」でした。
- ・「要望」の記載主旨は、「学校運営」に関する記載が多く、タブレット端末の持ち帰りの見直しや学校からの配布物、案内の早期伝達や内容等の要望が見られました。次に多かった「学習指導」ではタブレット端末使用に関して学年間のレベル同一化や「学校行事」では、運動会の運営方法についての要望が見られました。
- ・「意見」の記載主旨は、「学校運営」と「学習指導」に関する記載が多く見られました。「学校運営」では、「要望」でも多かったタブレット端末持ち帰りの見直しや「学習指導」では、タブレット端末の使用や総合的な学習の時間に関する意見が見られました。
- ・「御礼」の記載主旨は、「学校全般」、「教職員」、「学校運営」に関する日頃の感謝の記載が多く見られました。
- ・保護者の回答数は昨年度に比べ増加し、昨年同様、記載内容が多岐に渡る回答も多く見られました。そのため、記載主旨の仕分けにおいて、一つに絞れない記載もありましたが、記載内容からしてウエイトが高い部分の主旨で仕分けを行いました。

## 4. 所見および提言

### (1) 本校の令和7年度重点目標に関して

- ・本校のめざす学校像として掲げられた、「子どもが自ら学び、育つ学校」～子ども一人ひとりが学習を自分事として捉え、学びがいや喜びを感じ、よりよく育つ学校～実現を目指し、今年度の重点目標は、昨年度と同様の内容で設定されています。そのため、昨年度の所見および提言内容の改善状況を踏まえつつ、今年度の評価を行いました。
- ・本校の重点目標1「『キャリア・未来デザイン教育』の実現に向けて」の取組みの成果は、児童のアンケート調査項目「総合的な学習の時間と各教科で学んだことのつながりを感じている。」において反映されますが、肯定的回答率が88.7%となっています。今年度新設した本校独自評価項目のため、昨年度と数値面の比較はできませんが、総合的な学習の時間の公開授業見学を通じて、子どもたちがいきいきとして、探究的な学びを行っている姿を確認しました。また、児童のアンケート調査項目「将来『こんな人になりたい』『こんな人でありたい』という希望や思いをもっている。」においても反映されますが、肯定的回答率が85.5%となっています。昨年度の同様の意図の項目「わたしは、自分の将来に夢や希望をもっている。」の肯定的回答率と比較すると4.8%増加しています。3年前より実践されているカリキュラム・マネジメントの成果が反映されているものと評価いたします。来年度は、肯定的回答率が90%台になりますよう、学校の自己評価の課題で記載されている「探究的な活動を通じて身に付いた力が『自分の生き方や将来』に結びつくだというフィードバックをキャリア・パスポート等の活用を通じて、さらに意識的に行っていく。」について、取組みを注視したいと思えます。
- ・本校の重点目標2「教育DXの推進」の取組みの成果は、児童のアンケート調査項目「授業などで、タブレットを使うことで学びが深まったと感じることが多い」において反映されますが、肯定的回答率が91.1%となっています。昨年度の同様の意図の項目「先生は、映像やタブレットを工夫し、分

かりやすい授業をしている。」の肯定的回答率と比較すると1.9%増加しています。一方、保護者のアンケート調査項目「本校は、授業などで、学びを深めるために有効にタブレット端末を活用している。」の肯定的回答率は、73.5%となっています。昨年度と同様の意図の項目「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」の肯定的回答率と比較すると5.5%減少しています。教育DXに関する学校の取組みに対する認識が児童と保護者において背反しています。保護者の自由記入アンケートにおいても、学習指導におけるタブレット端末の使用に関する意見や要望が多く見られます。保護者は、学習指導におけるタブレット端末の使用状況を公開授業の機会しか見ることができないことも理由として考えられますが、学習指導以外においても、タブレット端末の持ち帰りや自宅での利用制限等の記載が多い傾向が続いています。学校の自己評価においても、「タブレット端末の活用に関する負の側面、学習に関係のないことを検索したり、学習と関係のない使用時間が大幅に増えていたりすることについては考慮していく必要がある、使用時間の制限や学校での保管等について、区全体で考えていくべき課題だと捉えている。」と記載されているように、課題は共有されています。来年度も引き続き、子ども自らが理想的な使い方ができ、保護者の不安を払拭できるような学習指導の取組みに注視いたしたいと思えます。

- 本校の重点目標3「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて」の取組みの成果は、児童のアンケート調査項目「わたしは、友だちのよいところを率直に認めることができる」や「わたしは、がんばってよかったと思えることがある。」において反映されますが、前者の肯定的回答率が96.8%と昨年度から2.6%増加し、後者の肯定的回答率は96.0%と昨年度から0.4%増加しています。また、児童のアンケート調査項目「学校での様々な交流を通じて、自分が成長していると感じる。」や保護者のアンケート調査項目「本校では、様々な交流（縦割り班活動や、通常の学級とわかさ学級の交流など）を通じて子どもが成長していると感じる」は、重点目標3の取組みの成果に反映される今年度新設した本校独自評価項目ですが、前者の肯定的回答率は92.6%、後者の肯定的回答率は86.1%と高い数値となっています。また、保護者アンケート調査項目「集団生活の中で互いに気持ちよく過ごせるために、約束を守ったり、譲り合ったり、他者を大切にすることの大切さを伝えている。」の肯定的回答率は97.0%と昨年度から0.4%増加しています。4年前から始まった「にじいろ班活動」（たてわり班活動）の定着や、通常の学級やわかさ学級の交流およびクラブや委員会活動の取組みの成果が反映されているものと評価いたします。
- 本校の重点目標4「地域社会と協働した教育の推進に向けて」の取組みの成果は、保護者アンケート調査項目「本校は、地域の人や施設などを教育活動に活かしている。」や地域・学校関係者アンケート調査項目「地域の人や施設を教育活動に活かしている」において反映されますが、前者の肯定的回答率は73.5%と昨年度から3.2%減少しました。後者の肯定的回答率は91.0%と昨年度より2.1%増加しています。生活科・総合的な学習の時間において、地域に根差した教育活動が行われていることは（\*注）、公開授業を通じて確認されるところですが、保護者の肯定的回答率増加のために、学校から保護者に対し、地域と協働した教育活動の実践についての情報発信の強化が課題と考えられます。

\*注 令和7年度第2学年生活科 単元名「この町 大すき さくらまち」が例として挙げられる。

- 本校の重点目標5「『学校における働き方改革』の推進に向けて」の学校の自己評価は、「本校教員の時間外在校等時間は明らかに減っている。会議の精選や地域行事への参加削減等、仕事量の削減だけでなく、子どもにとって学校が学び甲斐の在る場所、楽しい場所になることが最善の働き方改革である。」と記載されています。本校は、世田谷区教育委員会研究指定校であり、「授業改善」のテーマを推進されています。先生方の負荷が拝察される中、地域を上手に活用しつつ、子どもたちは勿論、教職員の皆様にとって、ウエルビーイングな学校となることを願っております。

## (2) 選択型アンケートと自由記入アンケートから見られる留意事項について

- 昨年度の学校関係者評価報告書で、保護者の選択型アンケートの中で、「私は、今年度の学校重点目標

を理解している。」の肯定的回答率が低い水準にあり、特に低学年保護者が低い傾向にある旨、留意事項として挙げました。今年度の肯定的回答率は、73.2%と昨年度より7.8%増加が見られました。学年別では、4年生保護者の肯定的回答率が69.0%と低い水準にあります。昨年度より増加は見られたものの、低い水準にあり、学校の重点目標の理解なくして、家庭と学校との連携は図られませんので、保護者への理解浸透の強化を引き続き推進願いたいと思います。

- これも、昨年度の学校関係者評価報告書で挙げさせていただきましたが、地域・学校関係者のアンケート配布数が27名（昨年度2名減）と少ないため、回答率のぶれが大きくなり、自由記入が少なく、本校の重点目標である「地域社会と協働した教育の推進に向けて」の成果を見るうえで正しく反映しにくいと思います。総合的な学習の時間で交流が生じた桜新町商店街関係者等、配布対象者数の増加をご検討願いたいと思います。

### （3）安全管理について

- 安全管理については、保護者アンケート調査結果の「本校は、安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回答率が93.4%と昨年度から2.5%増加し、「本校は、避難訓練やセーフティ教室など、子どもに安全に関する指導をしている。」の肯定的回答率が94.5%と昨年度から0.6%増加、「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」の肯定的回答率も88.9%と昨年度から3.6%増加し、学校の安全性についての項目の肯定的回答率は全て昨年度から増加しました。また、地域のアンケート調査結果の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的回答率は昨年度同様100%となっています。安全管理の項目は、一昨年から継続して増加しており、教職員の安全教育やPTA、地域と連携した安全指導の成果が反映されているものと評価いたします。

### （4）終わりに

- 今年度の重点目標達成に向けて、昨年度の課題を踏まえ、着実に改善が進められていると評価いたします。
- 本校の教育活動は、世田谷区教育委員会研究指定校として、区外からも高く評価されていることを、研究発表会を通じて確認しております。私立学校とは異なり、定期人事異動により先生方の交代はあるものの、「自ら学び、育つ子ども」という崇高な研究主題の実践が、本校の学校教育風土として定着していくことを願っております。加えて、PTA、学校運営委員会の連携による、地域を学びの場とする取組みが、今後益々充実されていくことを期待しております。

以上